

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600536		
法人名	有限会社ケアサポートふる郷		
事業所名	ケアサポート・ワズホーム (1階)		
所在地	帯広市西1条南36丁目1-27		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovyCd=0174600536-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ■2003年の開設時より看取り介護に取り組み、多くの事例を重ねている ■事業所理念を職員がしっかり共有し、「当たり前」の生活が送れるよう支援している ■旬の食材を活用し、季節を感じられるようにしている ■季節の行事(餅つき、おはぎづくりなど)に利用者さんが主役として参加している ■誕生会は個々に実施。本人のための誕生会を行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は帯広中心部から国道沿いに南に5キロほどにあり、清流日本一に選ばれた札内川に隣接した自然豊かな閑静な住宅街にある。近隣には大型スーパーが建ち生活利便性が高い。木造2階建ての事業所の敷地内には家庭菜園や植木と石をあしらった庭園があり、菜園からの旬の食材を使った食事が大変好評であり庭園は利用者にとって心が和む楽しみ場所になっている。共用部の明るい居間には利用者が集い、壁には季節の飾りつけや利用者手作りの作品が飾られている。家庭的な雰囲気の中で職員や管理者との会話に信頼関係が築かれている様子が見られる。家族アンケート回収率の高さやコメントからも日頃のホームとの関係性の良さが理解できる。認知症ケア専門士の管理者がホーム内のケアや地域の関係団体の一員として活躍している。看取りは開設当初から利用者、家族の希望に添うよう積極的に取り組み、毎年複数看取っているため、全く気負いなく自然体で取り組み、遺族や職員の気持ちに寄り添ったグリーンケアに努めている。管理者や看護師、職員、医療機関がチームで連携を取りながら質の高いケアの提供に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 多くの職員が理解し、実践するよう努力している まだまだ実践できていないが、できるよう努めたい 	職員は、会議やミーティング等で理念を唱和し、職員間で共有し実践につなげている。また、ケアの中で迷ったときなどは理念に立ち返って考え、実際の支援に生かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員として交流を深めているように感じる コロナ禍のため交流は控えているが、地域住民へのあいさつなどは行っている 	町内会に加入しており、町内の新年会や花見など参加し地域住民と交流していたり、ホーム主催の夏祭りにも参加を呼び掛けていたが、コロナ禍で地域との交流は自粛している。近隣の顔なじみの人とあいさつなどしながら、関わりの継続に努力している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> できていない コロナ禍のため多くはできないが、散歩時の姿を見てもらうなどで、生き生きと生活している様子は示せていると思う 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため中止が続いている（実際は書面会議として実施） 	年6回定期的に開催し地域包括支援センター職員、町内会、家族代表者等が参加し、ホームの現状や取り組みについて報告し、助言を得ながら運営に活かしていたが、コロナ禍でホームでの開催ができないため、書面での会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 取り組めていない よく分からない 	市の福祉課や介護保険係などから助言を得たり、運営推進会議に参加している包括支援センター職員からも助言を得ている。またSOSネットワークに登録し警察や社協など地域と情報の共有化を図っている。帯広市ケア会議に出席し、ケアマネ協議会とグループホーム協議会の役員として参加し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 玄関の施錠は行っているが、それ以外は取り組めていない 離脱する利用者さんがいるため、やむを得ず玄関、ベランダを施錠している。対策は日々、職員で考慮している 	目に見える身体拘束に限らず言葉による拘束についてなど、テーマを決めて学習しレポートを提出したり研修を行ったりしながら理解に努めている。離脱する利用者さんがいるため玄関等の施錠を行っているが、身体拘束の適正化のための対策について、職員間で確認し常に利用者に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 学習の機会を持ち、防止に努めている 日々の業務の中で、職員同士で虐待防止に向けた会話の機会を持っている。ニュース報道にも注目している 		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・市の市民後見人研修を受講し、資格を取得した。9月にフォーラムにも参加予定 ・学ぶ機会を持つようにし、少しずつ理解を進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・分からない ・できていると思う		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・反映できていると思う	利用者からは日常の会話や生活の中から、家族等からは来訪時や電話などで意見や要望を聴くよう努めている。運営推進会議の加者家族からも議事録を基にした返信から運絵にも反映している。	今夏の夏祭りは利用者や家族等にアンケートを取り、現状の問題点や要望を得て運営に反映する予定だったが、コロナ禍により中止となり実施されなかった。夏祭りだけでなく、各イベントにおけるアンケート、広報誌にアンケート等を添付するなど、方法はいろいろあるかと思う。効率の良い方法を実現し運営に反映させていくことに期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月末にレポートを提出し、提案できるようになっている ・全部ではないができていると思う	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、朝礼やミーティング時に話を聴くようにしている。職員には月末に日常の業務などの意見や要望・提案などレポートにまとめ吟味しながら運営に反映させている。職員の体調や悩みなどを個別に時間を作り話を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・整備されていると思う ・分からない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・コロナ禍のため外部研修の機会はほぼないが、個人が受講する研修については積極的に支援してくれる ・学習に活用できる書籍により学ぶ機会がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍のためできていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居情報をもとに、個人記録等で職員間の情報共有を行い、安心して生活できるよう支援している ・安心できるよう利用者さんの話をしっかり聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族等に会う機会があるときは、日常の様子などを伝えている ・あまり利用者さんの家族と話す機会がなかった		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・自分ではできていない ・見極められるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・料理や洗濯などを利用者さんと行い、または任せ、感謝の言葉を伝えている ・介護される人、する人ではなく、一緒に生活していると思って支援できている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・できていると思う ・よく分からない		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・なるべく途切れないよう支援できている ・本人からの要望があれば、対応に努め支援したい	コロナ禍の為に、馴染みの友人や知人等の面会等は制限されている。馴染みの知人や友人からの電話や手紙のやり取りなど、利用者のこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者さん同士の日々のかかわりを観察し、ときに橋渡しをし、ときに間に入り、調整を行うよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ホームで看取りをした利用者さんの家族から話を聞く機会があった ・できていると思う			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・意思表示の難しい利用者さんへの声掛けも欠かさず、本人の気持ちをケアプランに反映させるよう努力している ・なるべく本人らしく暮らせるよう支援している	利用者の多くは会話の中で思いを把握できるが、言語表出が難しくなった方は表情や手指の動きなどから読み取っている。入居時の本人・家族からの聞き取りを大切にし、思いを推測し職員間で共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・（フェイスシートやアセスメントシートなどにより、職員間で）共有できていると思う ・把握できるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の生活を記録し、課題や生活上の変化を把握し、ケアに反映させるよう努めている ・それぞれ把握でき、報告しあえている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の様子に課題があれば、改善できるように介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聴き、担当する職員の気づき等も参考にして、一人ひとりの状態や思いを大切に、暮らしに反映できる介護計画が計画作成担当者により6か月毎に作成され、家族の同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・情報共有できている、見直しに生かしている ・個人記録に日々の様子や気づきを記入し、職員同士で情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人に合った支援ができている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自分らしく楽しく生活してもらえよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月二回の内科の訪問診療に加え、状況に応じて歯科訪問診療の受診も行っている	利用者、家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。協力医の内科医は月に2回、状況に応じ歯科医も往診に来て、適切な医療が受けられるようになっている。専門医受診の際は家族が同行し、必要等に応じて文書にて利用者のホームでの状況について医師に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・終日連絡可能。日常的に助言、支持を受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連絡を取り経過確認するとともに、本人、ご家族に退院後の希望を確認している ・自分は病院関係者とは関係づくりはできていない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取り同意書を交わした際にはケアプランに組み込み、医療と連携し、希望に沿えるよう支援している	入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を利用者及び家族に説明し同意を得ている。年に2～3人の看取りを行っている。状況に応じて担当医と家族、職員との3者で看取りの同意について共有しチームでかかわるようになっている。看取り後には職員と共にグリーフケア（大切な人を亡くし、悲しんでいる人に寄り添い手助けをするケア）を行い振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・一般的なマニュアルに加え、研修に参加し実践力をつけている ・現在はコロナ禍のためできていない		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・現在はコロナ禍のためできていない ・防災知識を学習し、対応できるようにしている	町内会等との協力を得ながら実施する避難訓練の予定がコロナ禍で延期になっているが、火災や停電などの防災対策、施設裏の河川氾濫等も想定しながら職員に防災意識が浸透するよう研修を行っている。自家発電装置の設置やマニュアルも整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・対応に迷う場合は、会議等で意見を募り、要介護状態が悪化しても人格を尊重する対応を心がけている ・その人が嫌に思わないような、丁寧な声掛けを心がけている	利用者一人一人の尊厳やプライバシーに配慮しながら、日々のケアでの声掛けや態度に気を付けている。職員間でも気づいた点や難しい場面は、研修会や会議等で話し合っ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人の希望が表出されるよう表現方法を工夫し、声掛けしている ・自己決定できるような声掛けに努めている ・日常生活の中で本人の希望を聞くようになっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	・利用者さんの気分によって、入浴日を変更して対応している ・あまりできていない日が多い		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節にあった衣類を勧めたり、入れ替えを行っている ・入浴準備時など、本人に洋服を決めてもらうなど、支援できている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・何が食べたいのか意見を聞くほか、準備なども手伝ってもらっている	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立を作ったり、家庭菜園の旬の野菜を食材にして季節メニューに取り入れている。職員と一緒に調理したり配膳するなど食事の楽しみを支援したり、職員が同じ食卓を囲み和やかに食事ができる様工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂食量が少ない場合、記録に残し、声掛けや好みの食品で食べられるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分でできる場合は声掛けし、できない場合は職員が介助している。治療が必要な場合は、シカの往診で対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・なるべくトイレで排泄できるよう支援している ・排便の状況を確認し、失敗しないよう支援している	一人一人の排泄チェック表を基に排泄リズムを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの自立排泄を促している。リハビリパンツやポータブルトイレを使用しながら、羞恥心や不安感のない配慮ある介護に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・運動への働きかけはあまりできていない ・下剤の調整を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・楽しく入浴ができるよう声掛けを工夫している。体調や気分によっては、あらかじめ決まっている曜日を変更することもある ・入浴予定の人に、それぞれいつ入りたいのかを確認している	週2回の入浴を基本としている。利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取組んでいる。入りたくない人は時間をずらしたり、曜日を変更するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者さんの体調に合わせて、体の負担がないように日中でも横になってもらっている		

ケアサポート・ワンズホーム（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・理解できるよう、しっかり確認するよう努力している ・処方に変更があった場合は特に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・役割を見つけ、自分らしく生活できるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍のためあまり外出はできていないが、近所の散歩は行っている	コロナ禍により外出が制限されている状況ではあるが、利用者の希望や状況を見ながら、施設周辺の散歩、車窓からの花見、又は通院時に合わせたドライブ等、安全に外出できるよう工夫しながら利用者の楽しみを支援している	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・全員ではないが支援できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族と相談の上、電話できるように支援している。またテレビ電話を楽しんでいる方もいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合った飾りつけや、食事など工夫している	共有の居間は広く明るく、季節感のある飾り付けがされ居心地の良さを感じる場所になっている。玄関、廊下には職員と一緒に作った手作りの品々が飾られ、利用者の感性を引き出す工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う利用者さん同士で過ごせる場所はある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人になじみのあるものなどを持ち込んでもらうなど、居心地をよくするための工夫を行っている	入居前の生活で使っていた家具や仏壇等馴染みのものを持参することで落ち着いた生活ができるように支援している。また家族の写真や人形を飾る等その人らしい部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・役割を見つけ、それぞれに合った生活ができるよう工夫できている		